

【補足資料】「おきなわ観光地域カルテ」プロトタイプ版

本補足資料は、9月13日に発表した「おきなわ観光地域カルテ」プロトタイプ版に関する追加情報をまとめたものです。リリース以降実施している地域ヒアリングで頂いた観光協会のコメントを3市町村分ご紹介します。なお、本カルテの共同開発を行っている関係者のプロフィールも添えました。引き続き、地域へのヒアリングを推進強化することで、年内に予定しているSeason1への改善点の反映は勿論、今後本カルテに導入するデータについても確認・検討をまいります。

■地域コメント

【那覇市観光協会】名嘉元 裕 事務局長からのコメント

これまで多かった観光スポットの人流データと異なり、町丁目や地域特性を踏まえたエリアの設定で詳細なモニタリングが可能になっていて、地域を網羅した精度の高い人流データを得られることは特筆に値します。また、単独市町村や地域DMOがデータを取得することはコスト的にも負担が大きいため、今回、OCVBが広域DMOとして圏内市町村や観光協会に提供するそれぞれの地域の「おきなわ観光地域カルテ」情報はとても有益で、各地域の観光振興推進に係る計画や各種の事業、主要な祭り等イベントの実態把握や分析、企画立案にも活用できるものと考えていて、大きく期待しています。

【沖縄市観光物産協会】金城 諭 事務局長からのコメント

沖縄市では、これまで本市の事業として「沖縄市観光統計調査」を作成していましたが、沖縄市のみでのデータ調査となるため、詳細分析やその後の対策などに限界を感じているところでした。今回の「おきなわ観光地域カルテ」を利用することにより、他市町村の状況も確認でき、本市が実施した事業の結果分析や、来訪者の行動分析などが可能となり、より効果的に活用できると考えます。今後は、本市を含めた中部地域での観光周遊へつながるように「カルテ」情報を活用していくほか、各観光協会と連携していくツールとしても活用したいと考えています。

【名護市観光協会】比嘉 重史 事務局長からのコメント

名護市観光協会では、名護市観光課が実施している観光統計調査等を基に、計画書を作成していますが「おきなわ観光地域カルテ」を利用することで、来訪者の属性や立ち寄りスポットが明確に把握可能となり、より具体的な計画書を作成できるようになると考えています。また、当協会が把握していない、観光客の立ち寄りスポットを分析することで名護市内にある新たな観光資源の開発にも繋げることができます。プロモーションにおいても明確なターゲティングによる効率的な誘致活動ができます。今後は、データだけでなく、その活用事例についても、観光協会やDMO間で共有しあえる連携体制づくりに期待したいです。

【補足資料】「おきなわ観光地域カルテ」プロトタイプ版

■共同開発関係者プロフィール



(株) ブログウォッチャー
おでかけ研究所
所長
酒井 幸輝氏

IT 事業会社でのマネジメント経験を経て、2010 年に株式会社コロプラに入社し、位置情報ビッグデータを活用したコンサルティング業務を担う「おでかけ研究所」を設立。2021 年に株式会社ブログウォッチャーに事業譲渡後、デジタル観光統計サービス「おでかけウォッチャー」事業立ち上げはじめ、観光やまちづくり関係者へのデータ活用コンサルティング活動を行っている。早稲田大学ビジネススクール修了(経営管理修士・MBA)。



琉球大学
工学部 工学科
社会基盤デザインコース
神谷研究室
神谷 大介准教授

2003 年京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了 博士(工学)取得
琉球大学工学部附属地域創生研究センター社会システム研究部門長(併任)
関西大学先端科学技術推進機構 社会空間情報科学研究センター・客員研究員

研究分野：

土木計画学を専門とし、特に防災・環境・交通・観光に関する研究に従事。最近では携帯電話位置情報や各種センサー等を活用し、観光流動や環境への影響に関する分析、観光危機管理、公共交通計画に関する研究を行っている。沖縄振興審議会専門委員会委員、沖縄県振興審議会基盤整備部会委員、沖縄振興審議会専門委員会委員沖縄県振興審議会基盤整備部会委員、沖縄観光 2 次交通の利便性向上に向けた検討委員会委員等にも貢献。

【補足資料】「おきなわ観光地域カルテ」プロトタイプ版



琉球大学
工学部 工学科
エネルギー環境工学コース
宮田研究室
宮田 龍太助教

2014年東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修了 博士(工学)取得
琉球大学工学部附属 地域創生研究センター社会システム研究部門 副部門長(併任)
琉球大学 島嶼防災研究センター 併任教員

研究分野：

人工知能(AI)を用いたデータ解析とアプリ開発を専門とし、特にそれを脳科学・気象学・生命科学・教育学・スポーツ科学・経済学の分野に応用する研究に従事。交通・観光に関する最近の取組としては、AIで動画から車両を判別し、沖縄県内の観光流動調査に役立てる活動を行っている。



琉球大学
国際地域創造学部
経済学プログラム
山田研究室
山田健太准教授

2009年東京工業大学大学院総合理工学研究科 博士後期課程修了 博士(理学)取得
琉球大学工学部附属 地域創生研究センター社会システム研究部門(併任)
東京工業大学 情報理工学院高安研究室 特別研究員(併任)

研究分野：

ソーシャルメディア、携帯電話の位置情報、金融市場など社会・経済のビッグデータ分析や数理モデリングに関する研究に従事。また、得られた研究成果を誤情報拡散の抑制など社会課題の解決へ応用することにも力を入れている。